

中江藤樹と高島の学びの系譜

大溝藩校『脩身堂』への影響

近江国高島郡小川村(現在の高島市安曇川町上小川)に生まれ、「日本陽明学の祖」と呼ばれる近江聖人・中江藤樹(1608～1648)は、庶民と武士の別なく人々を教え、郷里の学びに大きな影響を与えました。

中でも高島郡大溝(現在の高島市勝野)に城下をおき、小川村も領地としていた大溝藩は、正保3年(1646)の藤樹と第二代藩主

分部嘉治との接見を皮切りに、藤樹没後も歴代藩主が藤樹書院の保護・維持に努め、『藤樹先生年譜』『徳本堂記』の編集などを進めました。

また、藩士の中には藤樹を敬い、藤樹の三男・常省に学ぶ者たちが存在し、彼らと全国各地から藤樹書院を訪れる著名な学者や文人たちとの交流は、大溝藩の教学に大きな影響を与えました。

大溝藩は小藩ではありませんが、教育への関心が高く、天明5年(1785)近江諸藩のなかで最

も早く藩校『脩身堂』を設立しました。教学の中核を担った藩士らが、古義学派の著名な儒学者・伊藤東涯(1670～1736)に学んでいたことから、藤樹の学風は薄れたものの、藩内の藤樹を慕い仰ぐ念は益々強くなり、近江聖人として厚く敬う気風が定着していきま

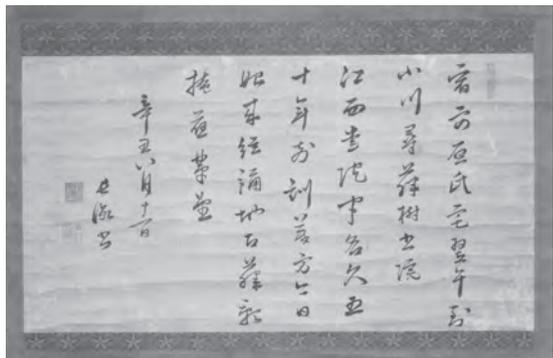
記念館での展示

現在、近江聖人中江藤樹記念館では令和4年度後期企画展「中江

藤樹と脩身堂―学びの系譜―」を3月31日(金)まで開催しています。中江藤樹が大溝藩主より下賜されたと伝わる直垂をはじめ、書院での藤樹研究の中心人物となった安原貞平や、伊藤東涯の書跡のほか、今回初公開となる『脩身堂』文芸奉行(教授)を務めた中村徳勝らを輩出した中村家に伝わる書物など、藤樹が大溝藩に与えた影響や、『脩身堂』開校にいたるまでの経緯を知るうえで貴重な資料を紹介します。ぜひこの機会に近江聖人中江藤樹記念館へお越しください。

近江聖人中江藤樹記念館

TEL (32) 0330



七言絶句 伊藤東涯 筆(藤樹書院蔵)



直垂 伝中江藤樹遺服(藤樹書院蔵)

編集感

山々が紅葉でにぎわっていく秋がやってきましたね。食欲の秋、実りの秋、読書の秋、さまざまありますが今回は芸術の秋に目を向けてみましょう。P8、9では高島市市民劇2022を特集しています。第6弾を迎える市民劇の、本番を楽しむポイントや実際に出演するメンバーのコメントなどを掲載していますので、観劇のお供にぜひご覧ください! (M)



広報たかしま

令和4年

11

月号

No.274

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒500-1502 滋賀県高島市新旭町北畑5の10番地

TEL 0740(25)8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
E-mail: t-info@city.takashima.lg.jp